

# 甲南病院瓦版

## 人類の誤算

—コロナの長期化と猛暑夏日の中、肥満遺伝子を考える！



内科・消化器内科

片岡 慶正 医師

人類の歴史は、“寒さと飢え”との戦いでした。エネルギー効率の高い脂肪を少しでも体内に貯めて、食糧確保が不安定な厳しい自然環境で生き延びるために、世代を重ねて、さまざまなエネルギー節約遺伝子や肥満遺伝子を獲得し、進化させてきました。先祖が深化させてきた肥満遺伝子のおかげで私たちは今を生きています。人類の遺伝子が新しい環境に適応するには何と10万年はかかると考えられています。今を生きる私たちの遺伝子は、どうも飢餓時代のままなのです。

平均寿命は、縄文人では15歳前後、江戸時代では30歳代、第二次世界大戦直後の50歳代から、年々増加の一途を辿り、昨年の厚労省の報告では男性が81.4年、女性が87.5年といまだに右肩上がりで上昇しています。この50年間での平均寿命の伸びは驚異的であり、人生100年という文言まで流布する時代となりました。しかしながら、今を生きる私たちが、その平均寿命の年齢まで生きるといのはどうも幻想的な様相です。

この数年、わが国の夏の猛暑は例年、過去最高を記録し続けています。今年も、40度近い猛暑日がすぐそこまで来ています。そんな中、肥満の生き延び作戦はどうすればよいのか？ 真剣に考えて、対応しなければなりません！ 世界の肥満人口は6億4100万人に達し、わが国の最新では20歳以上の成人男性は32%、女性は22%がBMI $\geq$ 25以上の肥満といわれています。ちなみに私の腹囲はメタボですが、BMIは23.9とかろうじてセーフです。

2021年6月28日記

